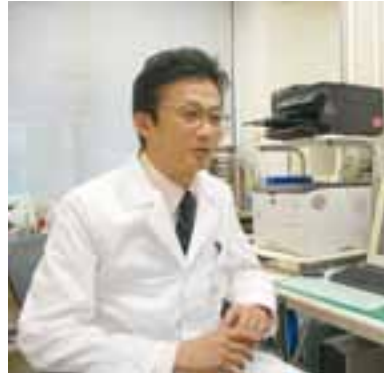


健康通信

市民病院より

問合先 市民病院 (☎76-4131)

心臓弁膜症 ～大動脈弁の病気～



▲心臓血管外科部長 澤崎 優

大動脈弁狭窄症

心臓弁膜症の中で、最近大動脈弁の病気が増えています。特に増加しているのが、動脈硬化性の大動脈弁狭窄症です。この病気は70～80歳代に多く、弁膜が石灰化を伴い固くなり、弁口が狭くなるため、血液が心臓から出にくくなります。心臓は病的に肥大し、最初は坂や階段を上ったり早く歩いたりすると息切れがします。放置すると意識消失、胸痛、呼吸困難などの症状が出て、突然死することもあります。聴診や心エコー検査で診断は簡単にできます。弁膜は固くなり使用できないため、人工

弁で取り替えます。使用する人工弁は生体弁が一般的です。その耐久性は20年80%ですから、余命から考えても2度目の手術が必要な方は稀です。何よりの利点としては、抗凝固療法のワーファリンという薬を飲まなくても良い点です。手術も簡単に安全に治療を受けることができます。

大動脈弁閉鎖不全症

一方で、弁が逆流する大動脈弁閉鎖不全症という病気があります。この中には、生まれつき3枚ある弁膜のうち2枚がくっついてしまっている先天性二尖弁、弁の一部が弱くなって伸びてしまう逸脱症、弁の周りが拡大する基部拡大症があり、病変部以外の自己弁膜がほぼ健全であるため、自己弁を温存した形成術が可能となります。技術的に難度が高いため、現在では60～90%の成功率ですが、ワーファリンが不要でかつ耐久性の長い自己弁温存療法という理想的な治療法です。

期待される自己弁再建術

最後に自己弁再建術という方法についてお話しします。この方法は心臓を包んでいる膜(心膜)を

用いて、3枚の弁膜を作成する手術です。どのような病変にも可能で、生体弁よりも大きなサイズの弁を作成できることが利点です。比較的新しい手術ですので、耐久性については現在最長13年です。生体弁と同等以上の耐久性が期待できます。

まずは受診を

大動脈弁の異常とその外科治療について説明致しましたが、小牧市民病院心臓血管外科・弁膜症センターではこれらすべての手術に対応できます。特に自己弁温存形成術については15年の歴史があり、他大学からの手術の依頼もありません。心雑音、弁膜症と言われた際にはお気軽にご相談ください。手術には適切な適応時期というものがありませんので、まだ手術が必要でない時には、適切なアドバイスと定期的なチェックをさせて頂きまします。すぐに手術と言われるのでは? という心配はありませんから、一度専門家の意見を聞いてみるというつもりで結構です。放っておくのが最も危険ですから、大事に至る前に受診されることをお勧めします。

◆お知らせ

助産師・看護師募集

市民病院では、手厚い看護の配置が質の高い看護サービスにつながり、患者さんの安全・安心を支える大きな力になると考えています。私たちと一緒に地域住民の健康と命を守る現場で働きますか?

職種 助産師・看護師

勤務

▼病棟勤務 3交替と2交替

▼外来・手術室勤務 2交替

対象 昭和38年4月2日以降に生まれた方で助産師または看護師資格取得者、平成25年3月助産師または看護師資格取得見込者
人員 30人程度

採用 平成25年4月1日

試験

▼内容 適性検査、面接

▼とき 1月5日(土)午前8時30分～

▼ところ 市民病院2階小会議室

※2月5日(火)に同様の試験あり

申込・問合先 12月21日(金)(必着)

までに、履歴書(写真貼付)、卒業証明書または卒業見込証明書、資格免許証の写し(資格取得者のみ)を郵送または直接病院総務課(〒485-18520住所不要

☎76-4131)